名取市高柳地区の花生産者の階層的特性 と花卉流通上の特性

葛 西 大 和

高柳地区の花生産の一般的特色、とくに栽培花卉の種類や栽培方法、および水田耕作との労働力の配分の仕方などについては、矢野(1960)がすでに論じたところである。

筆者は、高柳地区の花生産が農家のいかなる階層によって行なわれているか、また生産された花卉が市場とどのような形で結合しているかについて調査した。

平均耕地面積 1.25 ha (水田 1.10 ha, 畑地 0.15 ha) で、東北最大の花生産地区を形成している高柳地区の温室面積は、隣接集落、小塚原を合わせて、22,100 m² (1970 年) に達する(第1図)。それは、仙台市街地周辺で経営されている全温室の 73% にあたる。31 戸の花卉栽培農家は、平均して 62.7 m² の温室を経営しているが、中には 3,300 m² の加温温室を経営している例もみられる。表は、3,300 m² のハウスを加えて、経営規模別に花生産者を階層別に分類したものである。これによると、1.5 ha 以上の農家では、20 戸中 19 戸までが花生産を行なっていること、また、温室・ビニルハウスの経営規模別にみた場合でも、660 m² 以上の

第1図 高柳地区の温室・ビニルハウスの分布 (1970)

経営耕地 温室面積	0.5ha 未満	0.5~ 1.0ha	1.0~ 1.5ha	1.5~ 2.0ha	2.0ha 以上	合計
なし	3	6	7	—	1	17
150m ² 未満	1	2	1	2	—	6
150~330m ²	2	2	2	3	1	10
330~660	—	1	2	1	1	5
660~990	—	—	1	—	3	4
990~1,500	1	1	3	3	3	11
1,500~3,300	—	—	—	—	2	2
3,300m ² 以上	—	1	—	—	—	1
合 計	7	13	16	9	11	56

表 高柳地区の温室規模別・経営規模別
農家戸数 (1970)

花生産農家は経営規模の大きな農家層であることが明瞭である。水田卓越地域という均質的な条件から考えて、高柳地区の花生産は、一般的には資本金の大きな農家層によって推進されているといえる。

高柳地区で生産された花卉の大部分は、東北

第2図 高柳地区の花流通

園芸市場を中心に、仙台中央卸売市場・仙台中央市場・仙台青果市場の4市場へ出荷されている。名取市内の花生産者の組織である東北園芸市場(仙台)へ出荷される切り花および鉢物の量は、総生産花卉の 40~50% にすぎない。花卉栽培農家が 31 戸で、花生産量も小規模な割には、花生産者が自己の組合へ出荷する割合は少なく、他の市場へ出荷する花卉の量が多いのが特徴である。高柳地区の花生産者の出荷傾向は、1 つには市場側の価格操作によるものではあるが、有力な花生産者が特定市場の要職にあるという事にも基因している。

(1972. 2. 24 受理)

文 献

矢野陽子(1960): 仙台近郊花卉栽培地域の特性 東北地理 12 13~18

Some Characteristics in Cultivation of Flowers at Takayanagi, Natori City Yamato KASAI

It is worthy to note that on an early stage of developing flower-producing district, only 31 out of 56 farmers in Takayanagi district (the largest center of flowering plant in Tōhoku) bring their flowering plant to four markets, located at Sendai. This channel of circulation is not merely because of competition among the four markets, but because of a human relations among the farmers.